

平成27年6月10日

新型一般気動車の試作車(量産先行車)の製作について

- 主にローカル線で運行している、国鉄時代に製作し経年32～37年の一般気動車(キハ40形)の老朽取替用として、新型一般気動車の新製を計画しています。
- 新製車両の投入により安全基盤の強化を図り、安全で安定した輸送サービスを提供します。
- 試作車(量産先行車)を製作し、走行試験等による二冬期の検証を行ったうえで、平成31年度以降量産車の製作を予定しています。
- 新製する車両は、同時期に投入を予定している東日本旅客鉄道株式会社の車両と主たる仕様が同一の電気式気動車とします。

1. 試作車製作両数(予定)

- ・ 2両

2. 試作車投入時期(予定)

- ・ 平成29年度

3. 車両の特徴

- ・ キハ40形と同様に、前後に運転席を設けて1両で運転可能な車両とします。
- ・ ワンマン用設備を設けて、ワンマン運転が可能な車両とします。
- ・ 冷房装置の設置、車いすスペースや車いす対応トイレ等のバリアフリー設備の充実によりサービス品質の向上に努めます。
- ・ エンジンの動力で発電した電力により、モーターで走行する電気式駆動システムとします。(※別紙参照)

4. その他

- ・ 最終的な製作両数は、従来車両の保有数140両よりは下回る見込みです。

【参考】キハ40形 一般気動車

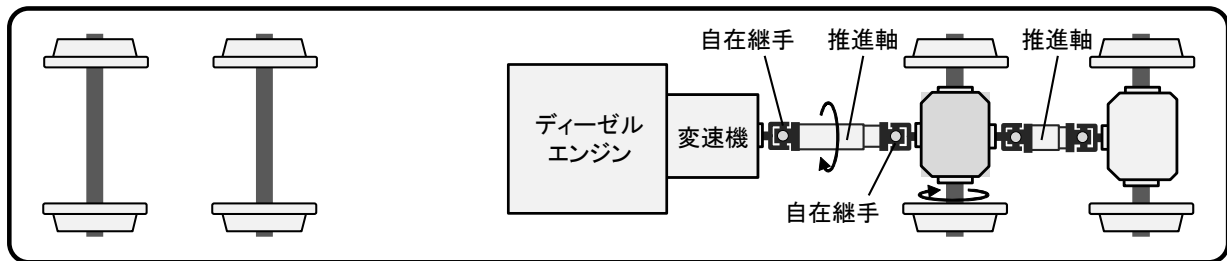


製作年 : 昭和52～57年
経年 : 32～37年
当社保有数(現在) : 140両

【 駆 動 シ ス テ ム 】

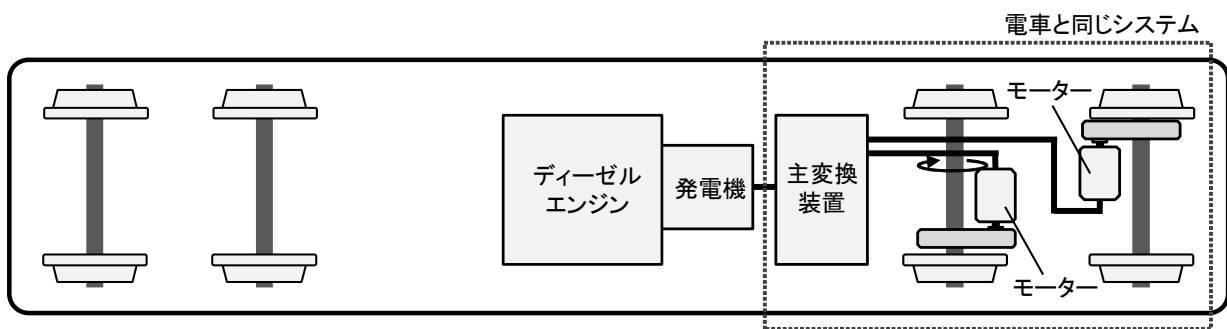
[従来車両] 変速機式

○エンジンの動力を変速機と推進軸で直接伝達して走行します。



[新型車両] 電気式

○エンジンの動力で発電した電力によりモーターで走行します。



■ 電気式のメリット

安全性の向上

- ・落下につながりやすい部品（推進軸、自在継手等）をなくすことができ、運行時及び保守時の安全性が向上します。

信頼性の向上

- ・複雑な構造で故障しやすい機器（変速機等）をなくすことができ、信頼性が向上します。

メンテナンスの軽減

- ・構造がシンプルで機械的な要素が少ない電車と共通の機器を採用するため、メンテナンス時の負担を軽減するとともにコスト低減を図ることができます。